

事務事業名	観光等促進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光係	大紺 和由

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標	社会の健康・市民の活力があふれるまち		
	個別目標	にぎわいのある地域をつくる		
	めざす成果	「大和」に多くの人が訪れている		
根拠法令	名 称			
当該事業の法令等による義務付けの有無		無		
事務事業の期間	事業開始年度	事業終了（予定）年度	事業期間	
	平成03年度		設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
市民、市外からの来訪者		29年度（決算額）	30年度（決算額）	31年度（予算額）
	事業費	4,109	10,467	12,312
	人件費	11,251	14,472	15,955
目 的	総事業費	15,360	24,939	28,267
市民に活力を与えると同時に、まちに活気と賑わいを生み出します。	31年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		8
		一般財源		12,304
		合 計		12,312
手段、手法【実施手法：直営】				
・市内で行われる観光イベントの主催者に対して、観光促進事業等補助金を交付します。				
・各観光イベントを主催する実行委員会への参画や開催				

3. 活動内容

・で紹介するなど、事業の運営に対し支援を行います。 ・市主催の歌謡イベントの運営を行います。	活動指標1	名称	実行委員会等出席回数			単位	回	
		内容説明	市職員が実行委員会等準備会に出席した回数					
		指標値	29年度		30年度（当該年度）		31年度	
			予 定	35	35	35		
			実 績	36	35	— — —		
成 果（効果・予測）								
・交流人口の増加につなげることができます。 ・市全体の魅力アップ、イメージアップに貢献することができます。	活動指標2	名称	補助金交付件数			単位	件	
		内容説明	補助金を交付した件数					
		指標値	29年度		30年度（当該年度）		31年度	
			予 定	4	4	4		
			実 績	4	4	— — —		
課 題 各観光イベントを主催する実行委員会は、メンバーの高齢化や人材不足などの課題が進行しており、この対応策を講じる必要があります。	活動指標3	名称				単位		
		内容説明						
		指標値	29年度		30年度（当該年度）		31年度	
			予 定					
			実 績			— — —		
	活動指標4	名称				単位		
		内容説明						
		指標値	29年度		30年度（当該年度）		31年度	
			予 定					
			実 績			— — —		

4. 今後の方針等

今後の方針等	28年度	I：現状のまま継続	29年度	I：現状のまま継続	30年度	II：見直しのうえで継続
	今後も、観光イベントが円滑に開催できるよう、引き続き運営支援を行っていきます。また、やまとdeのど自慢については、昨年度の課題を踏まえ、開催スケジュールや開催会場等の見直しを図ります。 【「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果

市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	28年度	29年度	30年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、各観光イベントの実行委員会に対して適切な支援をしていくものです。まちの魅力のPR、観光資源の活用のために、今後も継続的に市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	28年度	29年度	30年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	平成30年度に第1回やまとdeのど自慢を実施しましたが、当日のタイムスケジュール、参加者の動線等、運営に関して改善点が見つかったため、これらに適切に対応することで、さらに効果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	主な事業費は、各観光イベントの実行委員会に対する補助金であり、その交付額については、市が実行委員会の予算案及び事業計画を精査したうえで決定しています。人件費は、主に実行委員会の運営支援に係る経費であり、その額は適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する観光イベントは、全市民を対象とした無料のものであり、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	28年度	29年度	30年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	市の広報媒体（広報やまとなど）やメディア、SNS等を活用して、市民及び市外の人たちに積極的に情報提供を行いました。また、イベント当日は、市民ボランティア等に運営のサポートをお願いし、協力いただきました。

事務事業名	イベント観光協会支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光係	大紺 和由

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・市民の活力があふれるまち			
	個別目標		にぎわいのある地域をつくる			
	めざす成果		「大和」に多くの人が訪れている			
根拠法令	名 称					
当該事業の法令等による義務付けの有無		無				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	平成13年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市イベント観光協会		29年度（決算額）	30年度（決算額）	31年度（予算額）
	事業費	16,604	17,762	19,106
	人件費	15,475	15,567	14,826
目 的	総事業費	32,079	33,329	33,932
本市の観光行政の一翼を担う大和市イベント観光協会の運営を支援します。	31年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】 ・大和市イベント観光協会に対して補助金を交付します。 ・大和市イベント観光協会の運営や事業についての支援、助言、指導を行います。		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		19,106
		合 計		19,106

3. 活動内容

活動指標1	名称	補助金交付回数			単位	回
	内容説明	一年間に補助金を交付した回数				
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定	1	1	1	
		実 績	1	1	――	
活動指標2	名称	定期監査、理事会、総会			単位	回
	内容説明	定期監査、理事会、総会に出席した回数				
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定	3	3	3	
		実 績	3	3	――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定				
		実 績			――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	28年度	I：現状のまま継続	29年度	II：見直しのうえで継続	30年度	II：見直しのうえで継続
	大和市イベント観光協会が安定的に運営できるよう、引き続き、運営や事業に対する支援を行っていきます。これに加え、大和市の魅力を発信する新たなPR手法について協会とともに検討していきます。 【「健康都市 やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業】					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	28年度	29年度	30年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	大和市イベント観光協会は、本市の観光事業の振興と発展を目的に、市がその設立から関わってきた団体であり、連携して事業を行う市が関与する必要性はあると考えます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	28年度	29年度	30年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	A	B	B	すでに観光ガイドを作成し、市内の観光名所の紹介を行っていますが、全ての観光名所を網羅する形をとっています。今後は市と協会が連携して、新たな視点でテーマ毎に観光資源のプロモーションを行うことで、さらに事業の効果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、大和市イベント観光協会に対する補助金であり、その交付額については、市が協会の予算案及び事業計画を精査したうえで決定しています。人件費は主にフィルムコミッション事業における庁内調整及び撮影立会に係る経費であり、その額は適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する大和市イベント観光協会は、全市民を対象に事業運営していることから、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	28年度	29年度	30年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	大和市イベント観光協会の事業について、広報やまとなどの市広報媒体やメディアを活用して、市民及び市外の人たちに積極的に情報発信の支援を行いました。また、撮影エキストラなど、市民の方がフィルムコミッション事業に参加できる企画への支援も行いました。

事務事業名	大和市民まつり支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	文化スポーツ部	イベント観光課	イベント観光係	大紺 和由

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	基本目標		社会の健康・市民の活力があふれるまち			
	個別目標		にぎわいのある地域をつくる			
	めざす成果		「大和」に多くの人が訪れている			
根拠法令	名 称					
当該事業の法令等による義務付けの有無		無				
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間	
	昭和53年度				設定無し	

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市民まつり実行委員会		29年度（決算額）	30年度（決算額）	31年度（予算額）
	事業費	11,500	11,500	11,500
	人件費	8,843	8,896	8,896
目 的	総事業費	20,343	20,396	20,396
大和市民まつり実行委員会の運営を支援します。	31年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		11,500
		合 計		11,500
・大和市民まつり実行委員会に対して、補助金を交付します。 ・同実行委員会の総括事務局として、まつり全体の運営を支援します。				

活動指標1	名称	実行委員会・部会等開催回数			単位	回
	内容説明	役員会、実行委員会、6部会の開催回数				
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定	26	24	25	
		実 績	27	25	――	
活動指標2	名称	イベント実施日数			単位	日
	内容説明	イベントの実施日数				
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定	2	2	2	
		実 績	2	2	――	
活動指標3	名称	出店数			単位	店
	内容説明	市民まつりに参加した市民団体等の出店数				
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定	350	360	350	
		実 績	346	357	――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		29年度	30年度（当該年度）	31年度	
		予 定				
		実 績			――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	28年度	I：現状のまま継続	29年度	II：見直しのうえで継続	30年度	II：見直しのうえで継続
	今後も、市民まつりが円滑に開催できるよう、実行委員会の運営支援を継続していきます。 また、ファミリー層に市民まつりをより快適に楽しんでいただけるよう、授乳室の増設などの受け入れ環境の整備を進めていきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	28年度	29年度	30年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、市内団体等が中心となって組織した実行委員会に対して、適切な支援をしていくものです。市民まつりは「心と心のふれあうふるさとづくり」、「愛着ある地域づくり」を目的に開催しており、社会の健康の増進に大きく寄与するものであることから、今後も継続的に市が関与する必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	28年度	29年度	30年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	近年、市民まつりには、小さな子どもがいる家族の来場が増えており、これらの来場者が過ごしやすい環境を整えることで、より事業の成果を高めることができると考えます。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	28年度	29年度	30年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費は、市民まつり実行委員会に対する補助金であり、その交付額については、市が実行委員会の予算案及び事業計画を精査したうえで決定しています。人件費は、市が担う総括事務局としての業務に要するものとして適正な水準であると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	28年度	29年度	30年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	本事業で支援する大和市民まつりは、全市民を対象とした入場無料のものであり、受益・負担の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減に向けた取り組み4点について十分に行ったか。
	28年度	29年度	30年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまとななどの市広報媒体やメディア、さらに大和駅前のサインタワーや壁面広告を通して市民及び市外の人たちに積極的に情報提供をしました。障がい者用駐車スペースの整備や野外ステージでの手話通訳など、ユニバーサルデザインに配慮しました。また、イベント開催当日は環境負荷低減のために、ごみの分別を徹底しました。